A decorative graphic at the top of the page features a circle of colorful paper human figures. The figures are in various colors including red, orange, yellow, green, and blue, and are arranged in a circular pattern, holding hands. The background is a light, neutral color.

令和2年度  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室  
活動報告





## 目 次

1. 基本理念	2
2. 学内環境整備の取り組み	2
3. 実施体制	3
4. 室員名簿	3
5. ミーティング	3
6. 令和2年度の取り組み	4
7. 事業実施状況	5
(1) 研究者支援	5
(2) 女子学生へのキャリア支援	7
(3) 多様な構成員の共生環境づくり	9
(4) その他	17
8. ニュースレター	18
9. 新聞掲載記事	21

## 1. 基本理念

鳥取大学は

- 世のため人のために頑張ろうと志す人の気持ちをくじくことなく、前向きに進んで行こうとする人を応援する職場・勉学環境
- 既婚、独身、同居、別居に関わらず家族を大切にし、健全な家庭を育んでいける職場・勉学環境を形成していくことを目指します。

### 行動計画

- ・ライフイベントとの両立支援

ライフイベントと研究および職務を両立するための支援・情報提供および環境整備に取り組み、また相談活動を行います。

- ・キャリアデザイン支援

企業見学会や女性研究員・技術者との交流会、ライフプランセミナーなどを開催し、キャリアデザイン支援を行います。

- ・啓発活動等

多様な個性や価値観についての理解と認識を深め、学内の意識改革を進めるため、セミナーや講演会等を開催します。

## 2. 学内環境整備の取り組み

### ■研究者支援

#### 1. 研究支援員制度

技術補佐員、リサーチアシスタント、アルバイト等を雇用し、研究支援員として子育てや介護等のライフイベントにより、研究活動における支援を必要としている研究者に配置する。

### ■女子学生へのキャリア支援

#### 1. 女子学生・大学院生による企業見学会

女子学生・大学院生を対象とした、企業を含む研究・開発・試験期間等の見学および女性研究員・技術者との交流会を行う。

#### 2. ライフプランセミナー

妊娠・出産に関する知識と、キャリア形成を考える機会を提供する。

### ■ライフイベントとの両立支援

#### 1. 子育て・介護に役立つ情報提供

育児・介護に関する法律や本学の制度、地域自治体（鳥取市・米子市）の子育てや介護支援サービスに関する情報を、ホームページ、印刷物、セミナーなどで提供する。

#### 2. 相談活動

教職員を対象とする相談室を開設する。

### ■多様な構成員の共生環境づくり

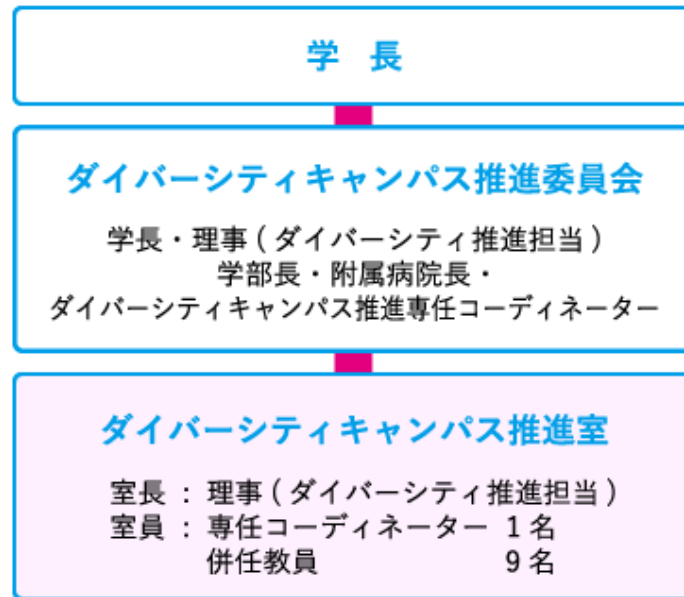
#### 1. 講演会・セミナー

多様な個性や価値観についての理解と知識を深め、学内の意識改革を進めるため、教職員、学生や大学院生を対象とした講演会、セミナー等を開催する。

#### 2. 学生スタッフ

キャンパスを変えていこうとする機運を高めるため、活動を行う。

### 3. 実施体制



### 4. 室員名簿

室 長	理事	細井 由彦
専任コーディネーター	ダイバーシティキャンパス推進室 コーディネーター	長谷 順子
併任教員	地域学部 准教授	畑 千鶴乃
併任教員	医学部 教授	深田 美香
併任教員	工学部 教授	野上 敏材
併任教員	農学部 教授	竹内 崇師
併任教員	附属病院 助教 ワークライフバランス支援センター副センター長	大羽 沢子
併任教員	乾燥地研究センター 准教授	安 萍
併任教員	教育センター 助教	滝波 稚子
併任教員	地域学部 准教授	稲津 秀樹
併任教員	学生支援センター 准教授	井上 菜穂

### 5. ミーティング

令和2年度ダイバーシティキャンパス推進室ミーティングは、メールおよびオンラインにて計5回開催し、事業内容の検討および実施を行った。

- 第1回 4月23日～24日 メール開催
- 第2回 6月 4日～ 8日 メール開催
- 第3回 9月17日 10時30分～ オンライン開催
- 第4回 1月21日 10時00分～ オンライン開催
- 第5回 3月22日 9時00分～ オンライン開催

## 6. 令和2年度の取り組み

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年実施していた事業のうち対面で行うもの（夏季学童保育、女子学生による企業見学会）を中止し、セミナーは、オンラインまたは、オンデマンドにて実施した。学外の会議もメール、またはオンラインでの開催となった。

セミナーは、オンデマンドで実施したことにより、都合のよい時、または休憩時間など空いた時間に受講でき、受講者が大幅増となった。

- 4月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第34号発行
- 6月12日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第35号発行
- 6月29日～ 7月31日  
eラーニング『LGBT等に関する理解確認クイズ』をmanabaにて実施
- 8月 4日 地域学部地域創造コース1年生の「大学入門ゼミ」において、対面にてダイバーシティキャンパス推進室について講義を実施
- 9月18日 「全国ダイバーシティネットワーク組織2020年度中国・四国ブロック会議」メール会議参加
- 10月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第36号発行
- 10月16日 第9回ダイバーシティCHIBA研究環境促進コンソーシアム連絡会「多様な人材が活躍できる環境づくりを考える」オンライン参加
- 10月23日 「第9回中国・四国地区男女共同参画推進連携会議」オンライン参加
- 11月 4日～11月30日  
FD・SD研修 ダイバーシティセミナー『性的マイノリティへの支援と配慮について』開催
- 11月18日 山陰中央新報に推進室の活動が掲載
- 12月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第37号発行
- 12月18日 朝日新聞に推進室の活動が掲載
- 12月21日～ 1月22日  
オンデマンドセミナー『イスラム教を知ろう』開催
- 2月 1日 令和3年度研究支援員制度利用者 募集開始
- 2月 5日 ニュースレター『Pear Pair 通信』第38号発行
- 2月26日 令和3年度研究支援員制度利用者 決定通知
- 2月26日 ライフプランセミナー『キャリアを考えよう』をオンライン開催

## 7. 事業実施状況

### (1) 研究者支援

#### ○研究支援員制度

ライフイベントのために研究時間が十分にとれない研究者に対して研究支援員を配置し、研究活動に対する支援を行った。令和2年度は、年度中に追加募集も行き、女性研究者4名、男性研究者4名の計8名に研究支援員の配置を承認した。

男性研究者の制度利用者が年々増加しており、本年度は同数となった。

研究支援員配置を承認した研究者

	人数	内訳		理由	
		女性	男性	育児	介護他
令和2年度	8	4	4	7	1

#### <研究支援員制度利用者の声> (抜粋)

- ◆ 研究支援員さんのサポートにより、作業に時間がかかるアンケートデータの入力や、資料の整理、入力データのダブルチェックを行うことが出来たため、勤務時間外の中で教育や研究に十分な時間を割くことが出来たと考える。また、一連のデータ管理は作業量が多くなるため、一人で行うとミスが生じやすい部分があるが、人員配置のお陰で余裕をもって作業を行うことが出来ている。ミスを最小限に抑えつつ効率よくデータ整理を行うで、研究の質を高めることに繋がっている。  
さらには、家庭の事情で通勤距離が長く、配偶者の勤務の都合上、自分が子供の送り迎えをする必要も出てくることが多いのだが、勤務時間内で効率よく仕事を行うことが可能となったため家庭の生活にもゆとりが出来たと感じる。  
オーバーワークで心身ともに過剰な負担がかからないように、睡眠・食事・運動などの基本的な生活スタイルを整え、持続可能な範囲でワークライフバランスをコントロールしつつ、キャリアアップを目指す生活を送ることが可能となっていると考えている。
- ◆ I found the support of the research assistant very helpful in balancing work and life. I was not in problem whenever I am enforced to stay at home for taking care of my kids. The support staff has managed to cover research activities that should be done during my absence.
- ◆ 研究支援員の配置により、研究が効率的に進むようになった。その結果、帰宅時間が早くなり家族と過ごす時間が増えた。育児、家事に費やすことのできる時間が増えワークライフバランスが改善された。
- ◆ コロナ禍において、実習内容の変更、リモート講義の準備など時間に追われることが多かったが、研究支援員の配置により、研究がとまることなく、論文化まですすめられました。また、育休からの復帰であったため、精神的にも身体的にも、研究支援員の存在はありがたく、1年を通して研究も教育も行えたと感じています。

- ◆ 子供の看護による特別休暇を急に取得する際に、研究支援員の手助けにより植物の育成、菌の培養、サンプルの調整や保存、研究結果を写真データとして残すなどの様々な対応をしてもらえ、効率的に研究活動を行うことができた。また、これまで継続して同じ研究支援員による研究補助を受けることができたため、安心して研究補助をお願いすることができた。そのため、昨年度よりも研究業績を向上することができたと考えている。また、研究支援員が研究室内で学生と一緒に空間で仕事をする事により、普段より学生に対して声がけをしてくれ、研究室の良い雰囲気づくりをして頂けたことに大変感謝している。

研究支援員の支援により、育児と仕事（特に研究活動）とのワークライフバランスが取れていない事による焦りやストレスが軽減され、前向きに育児や仕事に取り組めたと感じている。

- ◆ 研究支援員には、主にデータ整理、データ入力等を行ってもらうことで、研究を効率的に進めることができた。成果発表にもつながり、学会発表を3本予定している。

また外部の競争的資金とは違い、複数のプロジェクトに関わってもらうことができるのが良いと感じた。

今年度は新型コロナウイルスの拡大で様々な制約を受けているが、何より精神的余裕が生まれたことにより、気持ちを前向きにすることができたことが大きいと感じている。

その結果、ワークライフバランスが改善されたと感じている。

- ◆ 申請者は生き物（微細藻類）を扱う研究に従事しているため、培養装置のメンテナンス、水質測定を含むルーティーンワークが毎日必要となる。研究支援員を配置する前は、子供の発熱等、不慮のトラブルにより、毎日行っている実験を実施できないまま帰宅せざるを得ないことがあった。また、会議等他の業務時間が想定より長引いてしまった場合、子供の迎えの時間が制約条件となり、実験を一度中断し、妻に子供の世話をお願いした上で、大学に戻り、実験を再開する等、申請者ならびに妻にも余分な労力がかかるケースもあった。

研究支援員に実験でのルーティーンワークを任せることで、申請者が担当する保育園へのお迎えに余裕をもって対応することができ、また、お迎え後に再び大学に戻る機会が減る等、ワークライフバランスが大きく改善された。



## (2) 女子学生へのキャリア支援

### ○ライフプランセミナー

人生における大きなライフイベントである妊娠や出産について、妊娠・出産には適齢期があり、適齢期を過ぎると妊娠しづらくなる（不妊）ことを知り、大学院進学や就職などをふくめた人生のキャリア形成を考えることを目的として、鳥取県東部不妊専門相談センターの橋本看護師と、ダイバーシティキャンパス推進室の長谷コーディネーターが講師を務め、鳥取県東部不妊専門相談センター（鳥取県立中央病院内）とダイバーシティキャンパス推進室を中継し、meet によるオンラインで開催した。

2月26日に開催。8名の学生・教職員が参加。

#### 案内チラシ

ライフプランセミナー

# キャリアプランを考えよう！

キャリアプランを考える必要性  
ライフイベントとは？  
妊活って？  
仕事との両立は？  
ダブルケアとは？

**日時** 2月26日(金) 15:00~16:00

**会場** meetによるオンラインにて実施  
meet.google.com/xuz-tbch-sbo

**講師** 鳥取県東部不妊専門相談センター  
不妊症看護認定看護師 橋本万住子  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室  
コーディネーター・キャリアコンサルタント 長谷 順子

**対象** 学生、大学院生、教職員  
※オンライン(顔出し不要)ですので、男性もお気軽にご参加ください。

主催・お問い合わせ先:  
ダイバーシティキャンパス推進室  
TEL 0857-31-5769  
MAIL: diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp  
http: //www.sankaku.tottori-u.ac.jp/

地域学部棟4階

## ライフプランセミナー『キャリアを考えよう!』を開催しました!

ライフプランセミナー『キャリアを考えよう!』を2月26日(金)に開催しました。

橋本看護師

今年度は、対象を教職員にも広げ、鳥取県東部不妊専門相談センター（鳥取県立中央病院）とダイバーキャンパス推進室（鳥取大学）を結び、meetによるオンラインにて実施しました。

妊娠適齢期、不妊の原因、産み時とライフプランなど出産そのものに関わる内容をはじめ、介護と育児のダブルケアや、妊娠・出産・育児期における働くための法律について話しました。



オンラインでの実施により、受講することへのハードルが下がり、集合研修と比較して受講しやすかったのではないかと思います。

受講者は、「妊娠できるようにするための健康管理や、妊娠適齢期を考えたライフプラン設計など、今からでもできる事は多いということに気が付いた」と感想を寄せていました。

### (3) 多様な構成員の共生環境づくり

#### ○ eラーニング「LGBT等に関する理解確認クイズ」 実施

LGBT等に関して理解いただくため、「LGBT等に関する鳥取大学の基本理念と対応について（教職員向け）」リーフレットを作成。リーフレットを全教職員へ配布するにあたり、リーフレットを読んでもらい、記載した配慮・対応について理解いただくため、教職員を対象としたeラーニングを実施した。

- 実施期間：令和2年6月29日～7月31日
- 対象：全教職員3,191名
- 実施方法：eラーニングシステム（manaba）を利用。
- 回答者数：489名（回答率15.3%）
- 平均点：7.6（8点満点）

#### LGBT等に関する理解確認クイズ設問内容

【質問1】適切と思われるもの全てにチェックをしてください。

1.  「まさか、ここにはいないと思いますが」というような、当事者がいないことを前提とした話し方をしない。
2.  「男性はA、女性はB」など性別によるグループ分けに気をつける。
3.  「オネエ」「ホモ」「オトコオンナ」「アッチ系・ソッチ系」などと発言し、笑いにするようなことをしない。
4.  ゼミなどの合宿で男女で部屋割をする前に、本人が希望を伝えることができるような配慮をする。
5.  授業などにおいて、学籍簿の名前や性別と、見た目が違うことを他学生の前で言及しない。
6.  名前が男性のように思えたからといって、「くん」付けで呼ばれ嫌な思いをする学生がいることを認識しておく。
7.  学生より当事者であることを相談されても、本人に無断で対応について他の教員に相談しない。
8.  学生への対応を協議するため、学生支援センター等の相談窓口と話をする場合、本人の許可を得た上で行う。

【質問2】LGBT等へのお考えや大学としての取組のあり方、必要改善点など、ご意見・ご要望がございましたら記入ください。

回答率が低い、対象者の半数以上が附属病院勤務者であり、多くの教職員には実施いただけただけではないか。

個人の結果云々が目的ではなく、リーフレットを読んでもらうことが目的で実施したが、manabaでは匿名での回答ができないこと、点数が出てしまうことから、結果(点数)が評価に利用されるのではないかと実施に対する不安もみられた。

LGBT等への考えや大学としての取組、必要改善点などの意見として、「このように考える機

会、理解を深めるための研修会等を定期的実施するべき」「どのような問題が現実的に発生しう  
るのか、どう教職員が対処していく必要が出てくるのか、具体的な事例の共有や勉強会の(FD/  
SD)の実施」「教職員に加えて、学生も学べる機会」など研修等の教育やLGBT等への理解の  
必要性を求める意見が多数。

また、オールジェンダートイレの設置を評価。トイレの増設や専用のトイレ、更衣室、健康診  
断など男性と女性が区別して行われるものに対して配慮を求める意見もあった。学生への呼び方  
について、「学生をさん付けすることに違和感があり、男性も女性もくんではダメなのか」「どう  
呼べばいいのか、大学として示してはどうか」などの意見があった。

さらに、LGBTだけでなくジェンダーも合わせて考えるべき、LGBTに限らず他の問題(外  
国人、同和、障がい者など)についても差別とならない環境を整えるべき。相談窓口の周知や、  
書類の性別記載の見直し、特別視せず一人の人間として尊重すればいいという意見。

一方、該当者と被該当者との利害が対立した際には、どのように対応すべきかという不安の声  
もあり。

多くの教職員にLGBTについて考えて頂く機会となり、ダイバーシティ環境を整える一歩と  
なったと考える。

## 「LGBT等に関する鳥取大学の基本理念と対応について(教職員向け)」リーフレット

**LGBT等に関する鳥取大学の  
基本理念と対応について(教職員向け)**

**ダイバーシティキャンパス基本理念**

多様な個性や価値観をもつ人々が集い交流し、新しい価値を創造していくことは、知の拠点たる大学の力の源泉です。  
鳥取大学は、『鳥取大学憲章』において、「様々な価値観が交錯するグローバル時代を迎えて、多様な文化や考え方があることを理解し、少数者や厳しい条件下におかれている人々に対する思いやりの心を持ち、社会に対する責任を果たすことを行動の規範とする」としています。これをキャンパスにおいて体現することが本学におけるダイバーシティ理念の実現であると考えます。本学の全ての構成員が、人権を尊重しながら、ともに学び、働き、多様性を力にしていくなにより、大学の教育研究活動を高め、地域社会や世界に貢献していきます。

**活動方針**

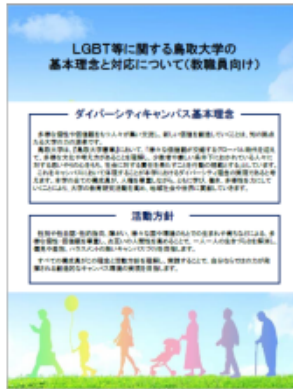
性別や性自認・性的指向、障がい、様々な国や環境のもとでの生まれや育ちなどによる、多様な個性・価値観を尊重し、お互いの人間性を高めることで、一人一人の生きづらさを解消し、偏見や差別、ハラスメントの無いキャンパスづくりを目指します。  
すべての構成員がこの理念と活動方針を理解し、実践することで、自分ならではの力が発揮される創造的なキャンパス環境の実現を目指します。

## LGBT等に関する理解確認クイズ実施報告

2020年09月28日



eラーニングシステムmanabaを利用し、6月29日～7月31日までの約1か月間「LGBT等に関する理解確認クイズ」を全教職員を対象に実施しました。



これは、リーフレット【LGBT等に関する鳥取大学の基本理念と対応について(教職員向け)】を4月に発行、リーフレットを読んでもらい、記載している配慮や対応について理解いただくために実施しました。

個人の結果(点数)が出てしまうことから、結果が評価に利用されるのではないかと不安や、「男性はA、女性はB」など性別によるグループ分けに気をつける」という設問について、男女の性別を基準としたグループ分けは原則行わない。トランスジェンダーや、どちらの性でもないとする学生がいることに配慮して欲しいとの意味でしたが、グループ分けをするよう気をつけるとの意味にもとれ、わかりにくかったとのご指摘がありました。

LGBT等への考えや大学としての取組、必要改善点などの意見として、「このように考える機会、理解を深めるための研修会等を定期的に実施するべき」、「どのような問題が現実的に発生しうるのか、どう教職員が対処していく必要が出てくるのか、具体的な事例の共有や勉強会の(FD/SD)の実施」、「教職員に加えて、学生も学べる機会」など研修等の教育やLGBT等への理解の必要性を求める意見を多数いただきました。

また、3月に鳥取キャンパスの広報センターと附属図書館に設置したオールジェンダートイレを評価いただきました。オールジェンダートイレの増設やオールジェンダー専用のトイレ、更衣室、健康診断など、男性と女性が区別して行われるものに対して配慮を求める意見もありました。学生への呼び方については、「学生をさん付けすることに違和感があり、男性も女性もくんではダメなのか」「どう呼べばいいのか、大学として示してはどうか」などの意見をいただきました。

さらに、「LGBTだけでなくジェンダーも合わせて考えるべき」、「LGBTに限らず他の問題(外国人、同和、障がい者など)についても差別とならない環境を整えるべき」、「相談窓口の周知や、書類の性別記載の見直し、特別視せず一人の人間として尊重すればいい」という意見もいただきました。

一方、「該当者と被該当者との利害が対立した際には、どのように対応すべきか」という不安の声もありました。

いただきましたご質問やご意見について、10月下旬から11月にオンラインにて実施を予定しておりますダイバーシティセミナーにおいて、講師よりご説明いただく予定としておりますので、是非視聴いただきたくお願いいたします。

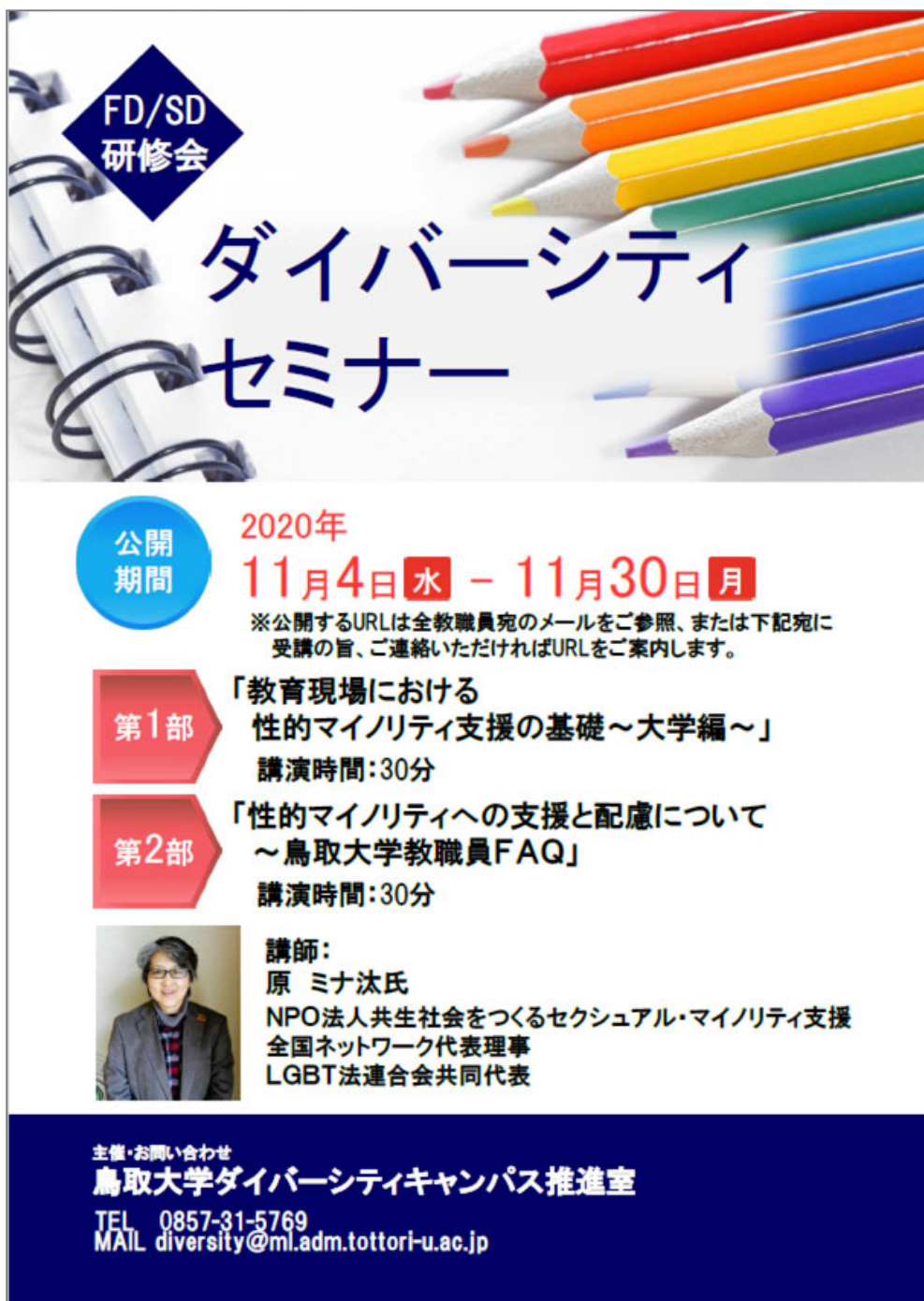
多くの教職員の皆さまに、LGBT等について考えて頂ける機会となり、また多くのご意見をいただき、本学のダイバーシティ環境を整える一歩となったと考えます。ありがとうございました。

## ○ダイバーシティセミナー

本年は、LGBT当事者、当事者からの相談や政府への働きかけを行っている原氏を講師に、LGBT等の学生、教職員への対応、配慮について、一層理解を深めることを目的として実施。

録画済みの動画を約1ヵ月間配信。2部制とし、第一部は大学における性的マイノリティ者に対する支援と配慮について、第二部は、先に実施したeラーニングにて教職員から受けた質問や意見に対する回答とし、学生を含めた210名が受講した。

案内チラシ



FD/SD  
研修会

# ダイバーシティ セミナー

**公開期間** 2020年  
11月4日 水 - 11月30日 月

※公開するURLは全教職員宛のメールをご参照、または下記宛に  
受講の旨、ご連絡いただければURLをご案内します。

**第1部** 「教育現場における  
性的マイノリティ支援の基礎～大学編～」  
講演時間:30分

**第2部** 「性的マイノリティへの支援と配慮について  
～鳥取大学教職員FAQ」  
講演時間:30分

**講師:**  
原 ミナ汰氏  
NPO法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援  
全国ネットワーク代表理事  
LGBT法連合会共同代表

主催・お問い合わせ  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室  
TEL 0857-31-5769  
MAIL [diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp](mailto:diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp)

## ダイバーシティセミナー（FD研修・SD研修）を開催しました！

11月4日～30日までの約1か月間、ダイバーシティセミナーを開催しました。例年は、講師に来学いただいたの集合研修を行っていましたが、コロナ禍であり、また時間に制約されず、多くの方に参加いただけるよう、録画した映像を視聴いただきました。

内容は、「教育現場における性的マイノリティ支援の基礎～大学編～」と7月に実施したeラーニングへのご質問やご意見に対する回答編として「性的マイノリティへの支援と配慮について～鳥取大学教職員FAQ」の2部制にて実施。分けることで一部あたりの時間を短くしました。



講師は、NPO法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表理事で、LGBT法連合会共同代表である原ミナ汰氏にお願いしました。

原氏は、教職員の皆さまからのご質問やご意見に、率直に答えていただき、LGBTではなくジェンダー教育として扱うべきではないかのご意見には、多くの方に知っていただくためには、象徴となる語句のほうが認知されやすいこと、自分の属性を知ることで救われる人もいる、など丁寧に説明いただきました。

今回の開催形式について受講者からは、「短時間で仕事の合間に受講可能だった」「オンデマンドで自分の都合に合わせて受講可能だった」、など受講しやすかった点を評価。内容については、「SOGI（性自認）など知らなかったことを知ることができた」「考えるよい機会がもられた」など良い評価がある一方、「内容が一般的」「さらっと流した程度の内容だった」など一般的な内容よりも、「具体的な事例があれば、より理解しやすい」「概要はわかったが、具体的にどのように対応したらよいか」など、具体事例を求める意見も散見されました。



今回、やむを得ずオンデマンドという形式にて開催しましたが、受講に時間と場所を選ばないこの方法は、多くの教職員に受講の機会をもってもらえるという大きな利点を表出するものとなりました。

## ○イスラム教を知ろう

多様な個性と価値観を尊重し、偏見や差別のないキャンパス作りを目指す中、その一環として、今回は「イスラム教」をテーマにセミナーを開催。

全世界で信者の多い宗教でありながら、凶悪事件の報道が目立ち、過激とか、怖いイメージをもたれがちなイスラム教。ムスリム（イスラム教徒）の留学生に、自身の日々の生活について話してもらい、イスラム教を知り、理解を深めてもらうことを目的に開催。

12月21日～1月22日までの1ヵ月間、manabaにてオンデマンドセミナーとして実施、教職員、学生を含め182名が受講した。

### 案内チラシ



The poster features a light green background with decorative Islamic geometric patterns in the corners. At the top, the title 'オンデマンドセミナー ~イスラム教を知ろう~' is written in large, bold, teal characters. Below the title, there is a central graphic of a five-petaled flower with teal petals, each labeled with a term: 'ムスリム' (Muslim), 'モスク' (Mosque), 'ハラール' (Halal), 'ラマダン' (Ramadan), and 'ヒジャブ' (Hijab). To the left of the flower, there is a text box with a question and an answer. Below the flower, there is a text box with information about the seminar. At the bottom, there are three portrait photos of the speakers, each with a caption below it. The bottom of the poster has a dark teal banner with white text providing contact information.

オンデマンドセミナー  
～イスラム教を知ろう～

「イスラム教」と聞いて、何をイメージしますか？  
1日に何回もお祈りをする、豚肉を食べない……

本学には多くのイスラム教徒の留学生がいます。  
彼らに信仰したきっかけや食事、服装など、日々の生活について、語ってもらいます。

公開期間: 2020年12月21日(月)～2021年1月22日(金)  
受講方法: eラーニングシステム manaba 「ダイバーシティキャンパス推進室」  
[https://manaba.center.tottori-u.ac.jp/ct/course\\_110803](https://manaba.center.tottori-u.ac.jp/ct/course_110803)

パネリスト: ファリスさん(地域学部1年)  
マリナさん(地域学部2年)  
ガリーさん(持続性社会創生科学研究科農学専攻2年)

ファリスさん      マリナさん      ガリーさん

※本セミナーは多様な価値観を学ぶためのものであり、特定の宗教を推奨するものではありません。

主催・お問い合わせ  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室  
TEL 0857-31-5769  
MAIL [diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp](mailto:diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp)



## オンデマンドセミナー「イスラム教を知ろう」を開催しました！

12月21日～1月22日までの1か月間、オンデマンドセミナー「イスラム教を知ろう」を開催しました。

ダイバーシティキャンパス推進室では、多様な個性と価値観を尊重し、偏見や差別のないキャンパス作りを目指しており、その一環として、今回は「イスラム教」をテーマにしたものです。

全世界で信者の多い宗教でありながら、凶悪事件の報道が目立ち、過激とか、怖いイメージをもたれがちです。ムスリム（イスラム教徒）の留学生に、自身の日々の生活について話してもらい、イスラム教を知り、理解を深めてもらうことを目的に開催しました。



話してくれたのは、地域学部1年のファリスさん、同2年のマリナさん、持続性社会創生科学研究科農学専攻2年のガリーさん。

ファリスさんは、ムスリムのやらなければならないこととして、信仰告白・礼拝・喜捨・断食・巡礼の5行と服装について、マリナさんは、ハラールとハラール食品について、ガリーさんは、本学で困ったこととしてハラール認証を受けた肉を使ったメニュー(※)がなく、肉が食べたいとユーモアを交えて話してくれました。

※第二食堂（現在閉鎖中）でチキンカレーが提供されていた

後半は、鳥取のムスリムについて、農学部4年のアリサさんが紹介。その後、当推進室の学生スタッフが留学生に質問を行いました。

受講者は、受講した理由として「報道では一部の過激派ばかりがクローズアップされており、一般のムスリムを知らないといすラム教は危険な宗教集団と勘違いをして敬遠してしまいがち」。受講した感想としては「生の声を聴くことができ理解が深まった」「イスラムの約束事を異質に捉える事が無くなった」など、意識が変わったことがあげられ、留学生に対しては「生活面の支援が必要」「日本人が住みやすいだけのままではいろんな面で発展につながらない」などキャンパスでの取り組みについての意見も寄せられました。

## ○学生スタッフ

昨年度から募集を開始した学生スタッフに、本年度5名の学生が応募、後期より正式に活動を開始した。定期ミーティングを月1回開催に加え、イベント開催時には不定期に開催。今年度はイスラム教信者に対する偏見や差別を無くすため、イスラム教の理解を深めるセミナー「イスラム教を知ろう」を学生スタッフが中心となり企画。留学生への質問も対応した。

### 案内チラシ

●多様な生き方を尊重しよう  
●ともに学ぶために  
●偏見・差別・ハラスメントをなくそう  
●能力を発揮するために

みんなで考えよう

**学生スタッフ募集!!**

月に1回程度、昼休憩時にキャンパスを語ろう!!  
性別・年齢・国籍・・・不問

申込み、お問い合わせは  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室  
diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp  
0857-31-5769



(5) その他

○休憩室&相談室

本年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、原則休憩室の利用は中止。

一方、相談室においては、産休、育児休職に関する相談や、勤務時間に関する相談、保育所利用に関する相談や、性マイノリティに関する相談など、延べ13件の利用と8冊の書籍の貸し出しを行った。

書籍リスト

ジャンル	タイトル	著者	発行年
<b>A. 男女共同参画全般</b>			
A-1	男女共同参画の時代	鹿島敦	2003
A-2	女を幸せにしない「男女共同参画社会」	山下悦子	2006
A-3	京都大学 男女共同参画への挑戦	京都大学女性研究会支援センター	2008
A-4	女性のための経済教授録	森田三	2009
A-5	男女共同参画ノート「変わった女」と「変わった男」	三浦清一郎	2009
A-6	こんなリーダーになりたい 私が学んだ24人の生き方	佐々木常夫	2013
<b>B. 女性活躍推進</b>			
B-1	時代を拓く女性リーダー 行政・大学・企業・団体での人材育成支援	国立女性教育会館	2008
B-2	賢い女性が二人いると会社は伸びる	中津公子	2012
B-3	女子のキャリア (男社会)のしくみ、教えます	森島厚嗣生	2012
B-4	キレる女 勇気ない男 一男と女の脳科学	黒川伊保子	2012
B-5	華やかなりし女性活躍のかけ橋の 三人の女性弁護士	佐賀千恵子	2013
B-6	女性はなぜ活躍できないのか	大戸真知子	2015
B-7	難産格闘 女性の活躍推進を阻む原因はなににか	大槻宗巳	2015
B-8	女の子が生まれていくなかに、覚えていてほしいこと	西原理恵子	2017
B-9	世界で通用する正しい仕事の作法 4つのカラーで人を知る、組織を活かす、世界と通じ合う	伊藤正彦	2017
B-10	男尊女子	酒井順子	2017
B-11	働く女性 ほんとの格差	石塚由紀夫	2018
B-12	女性リーダー育成のためにグローバル時代のリーダーシップ論～	お茶の水女子大学	2019
<b>C. ライフイベント(出産・育児)</b>			
C-1	産後が始まった！ 夫による、産後のリアル妻レポート	渡辺大地 他	2014
C-2	下探治療とキャリア復讐	乙部由子	2015
C-3	ワンオペ育児 一わかつてほしい休めない日常	藤田結子	2017
C-4	子どもが育つ魔法の言葉	ドロシー・ロー・ノルト	2003
<b>D. ライフイベント(介護)</b>			
D-1	親が倒れた！ 親の入院・介護ですぐやること・考えること・お金のこと	大田美恵子	2015
D-2	70歳をすぎた親が元気なうちに読んでおく本	水越英太郎 他	2015
D-3	介護強度 疲れながら介護を続ける方法	結城麻穂・村田くみ	2017
<b>E. ワークライフバランス</b>			
E-1	幸せを呼ぶ家事「時短」の新しい小ワザ88	生間朝子	2014
E-2	育生堂インパクト 子育てを聖域にしない経営	石塚由紀夫	2016
E-3	育児と介護を切り切るダイバーシティマネジメント イクボスの教科書	日経DUAL	2017
E-4	上向き×能下力 定時に帰って成果が出る仕事術	佐々木常夫	2017
E-5	育児は仕事の役に立つ「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ	浜原結子・中厚淳	2017
E-6	忙しい人の家族ごはん	城川朝	2016
E-7	富士通の働き方改革	富士通エフ・オー・エム	2018
<b>F. 研究活動支援</b>			
F-1	技術系英文ライティング教科書	中山祐木子	2009
F-2	世界で通用する人がいつもやっていること	中野優子	2012
F-3	英語もメールも英語は3語で伝わります	中山祐木子	2016
F-4	英語論文ライティング教科書	中山祐木子	2018
<b>G. 女性研究者についての海賊選訳支援</b>			
G-1	人生は夢へのチャレンジ 女性科学者として	未丹富美子	1991
G-2	素顔科学者 女性として科学者として	素顔科学者	1999
G-3	二人で挑んだ物語	未丹富美子	2000
G-4	理系の女の生き方ガイド 女性研究者に学ぶ自己実現法	宇野真美子 他	2000
G-5	キュリー夫人伝	エーブ・キュリー	2006
G-6	マリー・キュリー フラスコの中の闇と光	B・ゴールドスマス	2007
G-7	科学する心 日本の女性科学者たち	岩野真美子 他	2007
G-8	女性研究者のエンパワーメント	伊藤セツ	2008
G-9	素顔にサイエンス かがやき続ける女性キャリアを目指して	廣山広美 他	2008
G-10	海のプロフェッショナル 海洋学への招待状	女性海洋研究会チーム	2010
G-11	女性科学者に一家の光を 素顔30年の軌跡	女性科学者に明るい未来をのこ	2010
G-12	人生は、楽しんで暮らす	未丹富美子	2014
<b>H. 多様な生きかた</b>			
H-1	難癖のLGBT教科書	藤戸正和 他	2015
H-2	漫画 妻たちはどう生きるか	吉野善三郎・羽賀理一	2017
H-3	閉じ込められた子ども、その心を軽く 性同一性障害の生徒に向き合う	中塚幹也	2017
H-4	ダブルハッピーネス	杉山文野	2006
H-5	ダブルハッピーネス(コミック版)	森田みゆき・杉山文野	2007
H-6	彼らが生気で輝くときは、	栗上直子・百瀬しのぶ	2017
H-7	先生と親のためのLGBTガイド～もしあなたがカミングアウトされたなら～	渡津まめた	2016
H-8	カミングアウト～LGBTの社員とその同僚に贈るメッセージ～	ジョン・ブロン	2018
H-9	「居場所」のない男、「時間」がない女	水無田気流	2013
H-10	「個性」ってなんだろ？LGBTの主	中塚幹也	2018
H-11	第の巻①	田島源五郎	2015
H-12	第の巻②	田島源五郎	2016
H-13	第の巻③	田島源五郎	2016
H-14	第の巻④	田島源五郎	2017
<b>I. その他</b>			
I-1	産女は頼が悪いから	坂野カオルコ	2018
I-2	天上の星の世界の見方 中巻	池上彰	2017

※黄色帯は、本年度入手書籍

# 8. ニュースレター

鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室便り 令和2年4月5日

## Pear Pair 通信 第34号

### ●お知らせ - 年度はじめにあたり -

ダイバーシティキャンパス推進室へ名称変更してから1年経ちました。「多様な個性・価値観を尊重し、偏見、差別及びハラスメントのないキャンパス作りを目指す」理念のもと、手探りながら活動を行ってきました。要望の声が上がっていた性別を区別しないトイレ「オールジェンダートイレ」を2カ所設置でき、大学の取り組み姿勢を示すことができたのではないかと思います。今後もダイバーシティキャンパス推進室へご意見をお寄せください。

#### この号の内容

- お知らせ
- 活動報告①
- この号に聞く Asres Elias 助教
- お役立ち情報 研究支援員制度利用者追加募集について

今後の予定

### ●活動報告① - オールジェンダートイレを設置しました -

このたび、広報センター1階多目的トイレと、附属図書館1階多目的トイレを誰でも利用できるオールジェンダートイレと致しました。

#### 広報センタートイレ



ダイバーシティキャンパス推進室では、平成28年度（旧男女共同参画推進室）よりダイバーシティセミナーとしてLGBTの理解を促めるセミナーを毎年開催する中で、参加者より「性別を区別しないトイレ（全個室）が欲しい」「トイレなど改善点があるように思う」「認知を広げる努力、ハード面の配慮等取り組みは急務」などのご意見をいただきました。

本学では、多目的トイレを各棟に設置しており、どなたでも利用できる周知しておりますが、今回設置した2カ所のトイレは、車椅子のまま利用できるだけでなく、オスメイトや、ベビーチェア（附属図書館）、ベビシート（広報センター）、フロッピングボード（附属図書館）、介助用ベッド（附属図書館）なども備えており、性別を含めたバリアフリートイレとして表記、設置することとしました。

今後状況を見ながら、学内の多目的トイレについて、表記を変更することを検討します。

### ●活動報告② - LGBT等に関するリーフレット(教職員向け)作成-

このたび、教職員向けのLGBT等に関するリーフレット「LGBT等に関する鳥取大学の基本理念と対応について」を作成致しました。

このリーフレットでは、LGBT、性的指向、性自認、カミングアウトなど用語の説明のほか、LGBT等当事者に対する配慮・対応について、相談窓口、オールジェンダートイレ、LGBT等に関するDVや虐待防止などについて記載しております。

新入職員研修、新任教員研修より配布をはじめ、各部署へ配布予定です。是非一読いただき、ご自身の対応について見直していただきますようお願いいたします。



### ★このひとに聞く Asres Elias さん 農学部 助教

My name is Asres Elias, an Assistant Professor, belong to the Global Dryland Agricultural Science Course based at the Faculty of Agriculture, Tottori University.



My field of specialization is Rural Development and Agricultural Extension. Since 2015, except for the period of child care leave, I have been engaged in offering lectures and research guidance related to Agricultural Economics, Rural Development, Agricultural Extension and Gender issues in developing countries to undergraduate and graduate students as well as to short-term JICA trainees. I have also been engaged in collaborative researches on empowerment of women and youth mainly focusing in Africa.

I have two daughters (12 and 3 years old). Raising two children while working as full time staff is obviously tough. Moreover, raising children outside own country also adds burden on me and my husband as it is impossible to get the help of grandparents and the likes. However, I am very grateful to Diversity Campus Promotion Office for providing me support through the Research Support System. Hence, I can confidently witness the positive contribution of the system to actively engage in educational and research activities.

During my limited leisure time, I enjoy, watching movies, chatting with friends and have Ethiopian coffee ceremony.

At this time my best wish to all the people around the world is "Let God blesses our planet earth and free us from the Pandemic Novel Corona Virus".

### ★お役立ち情報 - 研究支援員制度利用者追加募集について-

ダイバーシティキャンパス推進室では、出産・育児および介護などにより研究活動を行う時間の確保が困難な研究者に研究支援員を配置し、研究者のキャリア形成及び継続を支援しています。

本年度の募集は既に終了しておりますが、育児休業などを4月に満了された方、家庭の事情などにより支援が必要となった方、長期出張等に期間中に申し込めなかった方などを対象に、2次募集を行います。



募集開始は、GW明けを予定しております。あらためてご案内します。尚、予算枠内の募集となりますため、利用者、一人当たりの利用時間は限られますことを、予めご了承ください。

### ●ご要望・ご相談などは、下記までお寄せください

〒680-8550  
鳥取市山町南4丁目101  
ダイバーシティキャンパス推進室（地域学部棟4階）  
TEL: 0857-31-5769 または 内線2166  
FAX: 0857-31-5797  
Email: diversity@tdl.adm.tottori-u.ac.jp  
HP: <https://www.tottori-u.ac.jp/5683.htm>



室長：梶井 由彦 理事  
専任コーディネーター：長谷 順子（キャリアコンサルタント）



Tottori University Office for Campus Diversity  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室

鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室便り 令和2年6月12日

## Pear Pair 通信 第35号

### ●お知らせ - 休憩室の利用を休止しています -

当室では、鳥取キャンパスダイバーシティキャンパス推進室内に【休憩室(相談室)】を設置しておりますが、感染防止のため、現在休憩室のご利用を一時的にお断りしております。

相談を希望される場合は、推進室のホームページより、事前にメールでご連絡ください。相談は、男性教職員の方も対応しております。

#### この号の内容

- お知らせ
- 活動報告①
- お役立ち情報
- LGBT等に関する理解確認クイズ実施
- とりりんサマースクール2020開催中止のお知らせ

今後の予定

### ●活動報告① - 第1回推進室ミーティングを開催しました -

4月23日(木)、本年度第1回ダイバーシティキャンパス推進室ミーティングを開催し、本年度の年間計画が承認されました。新型コロナウイルス感染防止のため、セミナーなどのイベント開催について確定できないものがありますが、状況を踏まえながら 事業をすすめて参ります。



本年度の  
委員の皆さんです  
どうぞよろしく  
お願いします

室長	ダイバーシティキャンパス推進室	理事	梶井 由彦
専任コーディネーター	長谷 順子		
地域学部	准教授	畑 千鶴乃	
医学部	教授	深田 美香	
工学部	教授	野上 敬材	
農学部	教授	竹内 崇樹	
医学部附属病院	助教	大羽 沢子	
乾燥地研究センター	准教授	安 洋	
教育支援・国際交流推進機構	助教	滝波 穂子	
地域学部	准教授	指原 秀樹	
学生支援センター	准教授	井上 菜穂	

### ●活動報告② - 研究支援員制度の追加募集を実施しました -

平成24年度より、出産・育児または介護などにより、研究活動を行う時間の確保が困難な研究者に研究支援員を配置することで、研究者のキャリア形成及び継続を支援する「研究支援員制度」を実施しており、昨年まで、延べ116名の方に利用いただいております。

本年度2月に募集を行ない、6名の方の支援を採択しましたが4月に育児休業復帰、また何らかの事情により募集期間に応募できなかった方を対象に追加募集を行ない、2名の方の追加採択を行いました。

募集は終了しましたが、年度途中の復帰や家庭の事情などにより、制度利用を希望される方は、推進室までご相談ください。



### ★室員紹介 大羽 沢子 さん 医学部附属病院 助教 ワークライフバランス支援コーディネーター 副コーディネーター

#### 公認心理師・臨床心理士

福岡県で小学校教員（約30年勤めました）在職中、兵庫教育大学大学院で博士課程修了（現鳥取大学大学院助教）の指導を受ける。

教員を退職後、鳥取大学大学院医学部系科学研究科博士課程在籍。脳神経小児科において算数障害についての研究を行う。病院内の職員を対象としたワークライフバランス支援活動の企画・立案やメンタルヘルス相談に従事。その他、公認心理師任用に関する事業、地域の学習・療育相談、主に算数の学習指導等を行う。

#### <余暇の過ごし方>

- 福岡に住んでいる娘や高校の同級生とzoom飲み会をしています。
- <読書>
- ももクロやKing of Primalsに音を提供していることで有名なC&Kのライブにいくこと（年間数回はマスト）
- <猫の飼育>
- 好きなことが人生を支える



### ★お役立ち情報 -LGBT等に関する理解確認クイズ実施-

当室は、多様な個性・価値観を尊重し、偏見、差別及びハラスメントのないキャンパス作りを目的としており、教職員の皆さまにご自身の意識や行動についてチェックいただきたく、全教職員を対象に男女共同参画週間イベントとして、LGBT等に関する理解確認クイズを実施いたします。

日頃何気なく言っていることや、行っていることが他者を傷つけていないか、この機会にご自身の振る舞いについて見直していただければと思います。実施につきましては、あらためてご案内します。

### ～とりりんサマースクール2020開催中止のお知らせ～



非常事態宣言は解除されましたが、実施においては、新型コロナウイルス感染症防止策を徹底する必要があり、スタッフ・参加児童ともに感染のリスクがあること、また開催を予定している期間（8月18日-24日）は学生が夏季休暇に入っており、アクトビラの確保や教職員の協力が難しいことから、とりりんサマースクール2020の開催は中止することとなりました。

教職員の皆さま、開催を楽しみにされていた子供たち、大変残念ですが、何卒ご理解のほどお願いいたします。この機会を利用して、ワークライフバランス推進のため、年休を取得いただきますようご検討ください。

### ●ご要望・ご相談などは、下記までお寄せください

〒680-8550  
鳥取市山町南4丁目101  
ダイバーシティキャンパス推進室（地域学部棟4階）  
TEL: 0857-31-5769 または 内線2166  
FAX: 0857-31-5797  
Email: diversity@tdl.adm.tottori-u.ac.jp  
HP: <https://www.tottori-u.ac.jp/5683.htm>  
(SDPを併称・開室しました)



室長：梶井 由彦 理事  
専任コーディネーター：長谷 順子（キャリアコンサルタント）



Tottori University Office for Campus Diversity  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室

# Pear Pair 通信 第36号

## ●お知らせ - 漫画「弟の夫」-

先日、本学にもお越しいただいた岡山大学大学院の中塚教授のお話を聞く機会があり、その中で、大学の入学試験で性的マイノリティの子どもへの対応を考える問題が出題されたことが紹介されました。その題材となったのが、漫画「弟の夫」。NHKでもドラマ化されていますが、LGBTを題材にしながら心がほっこり温まるお話です。全4巻、推進室にて貸し出ししておりますので、是非一度お読みください。

### この号の内容

- お知らせ
- 活動報告① LGBT等に関する理解確認クイズを実施
- 活動報告② 大学入門ゼミで授業を行いました
- 活動報告③ 学生スタッフの活動をスタートします
- この号に聞く 桑原祐樹さん 助教
- お役立ち情報 ダイバーシティ(オンライン)開催のお知らせ

## ●活動報告① -LGBT等に関する理解確認クイズを実施-

eラーニングシステムmanabaを利用し、6月29日～7月31日までの約1ヵ月間「LGBT等に関する理解確認クイズ」を全教職員を対象に実施しました。



これは、リーフレット【LGBT等に関する鳥取大学の基本理念と対応について(教職員向け)】を4月に発行、リーフレットを読んでもらい、記載している配慮や対応について理解いただくために実施しました。

個人の結果(点数)が出してしまうことから、結果が評価に利用されるのではないという不安や、「男性はA、女性はB」など性別によるグループ分けに気がつける」という設問について、男女の性別を基準としたグループ分けは原則行わない、トランスジェンダーや、どちらの性でもないと思う学生がいることに配慮して欲しいとの意味でしたが、グループ分けをするよう気をつけるなどの意味にもとれ、わかりにくかったところがありました。

LGBT等への考えや大学としての取組、必要改善点などの意見として、「このように考える機会、理解を促すための研修会等を定期的に実施するべき」、「どのような問題が現実的に発生しているのか、どう教職員が対処していく必要があるのか、具体的な事例の共有や勉強会(F/D/S/D)の実施」、「教職員に加えて、学生も学べる機会」など研修等の教育やLGBT等への理解の必要性を求めた意見を多数いただきました。

また、3月に鳥取キャンパスの広報センターと附属図書館に設置したオールジェンダートイレを評価いただきました。オールジェンダートイレの増設やオールジェンダー専用のトイレ、更衣室、健康診断など、男性と女性が区別して行われるものに対して配慮を求める意見もありました。学生への呼びかけについては、「学生をさん付けすることに違和感があり、男性も女性もくんではダメなのか」「どう呼べばいいのか、大学として示してはどうか」などの意見をいただきました。

さらに、「LGBTだけでなくジェンダーも合わせて考えるべき」、「LGBTに限らず他の問題(外国人、同知、障がい者など)についても差別にならない配慮を整えるべき」、「相談窓口の周知や、書類の性別記載の見直し、特別視せず一人の人間として尊重してほしい」という意見もいただきました。

一方、「該当者と被該当者の利害が対立した際には、どのように対応すべきか」という不安の声もありました。

いただきましたご質問やご意見について、10月下旬から11月にオンラインにて実施を予定しておりますダイバーシティセミナーにおいて、講師よりご説明いただく予定としております。是非ご視察をお願いいたします。

## ●活動報告② - 大学入門ゼミで授業を行いました-

地域学部地域創造コースの1年生を対象とした「大学入門ゼミ」において、コーディネーターが授業を行いました。

これは、ダイバーシティキャンパス推進室の紹介、設置目的や活動内容を説明することで、なぜこのような活動を行う必要があるのかを考えてもらい、ダイバーシティに関する理解を促すために実施したものです。



授業では、ダイバーシティとは、男女共同参画とは(法律からみる国の動き)、本学における男女共同参画推進室の設置からダイバーシティキャンパス推進室への名称変更、現在行っている事業の紹介、相談対応や休憩室、学生スタッフの募集について話ししました。

授業を受けた学生の感想を一部ご紹介いたします。



◆今回の講義では改めて性別による差別の現状について認識しました。「女性が社会で活躍するために」と様々な法が成立したとしても、日本人の根底にある「女性が家事や育児をしなければならない」という意識が変わらない限り女性の立場を向上させることはできないのだと感じました。

◆現代においてダイバーシティ、つまり多様性が叫ばれる世の中において、今日の講義はとても知見を深めることができる良い機会となりました。人権や性の在り方が注目を受けてきた世の中において今日の講義で受けた話の内容は頭に入れておかなければならないと感じました。昔からある女性に対してのある意味での偏見をなくしていかなければいけないと感じました。

## ●活動報告③ - 学生スタッフの活動をスタートします-

昨年、ダイバーシティキャンパス推進室へ名称を変更したことに合わせて、学生の意見を聞き、学生自身がキャンパスを築いていくという意識を高めるため、学生スタッフの募集を行いました。残念ながら、昨年度は応募する学生も無く、活動は行えませんでした。

今年、地域学部で授業を行ったことをきっかけに、学生スタッフへの応募者があり、現在は学生が好きな時間に、推進室内で話す時間をもち、相談のなかで、学生が興味のある問題を見つけている状況です。

今後は、活動日時を決め、推進室のイベントに関する意見や、テーマを決めて話す方向へ進めたいと思います。

興味のある学生がいましたら、声をかけていただけますようお願いいたします。



- 多様な生き方を尊重しよう
- 偏見・差別・ハラスメントをなくそう
- ともに学ぶために
- 能力を発揮するために

性別・年齢・国籍…不問  
申込み、お問い合わせは  
ダイバーシティキャンパス推進室まで

## ★この人に聞く 桑原 祐樹さん 医学部医学科 助教

医学部薬療予防医学分野の桑原祐樹です。現在は予防医学のための疫学研究に携わっています。2020年度から研究支援員制度を利用させていただいており、限られた教職員のマンパワーで質の高い疫学研究を行う上で本制度には本当に助けられています。

また、自己研鑽や家族とのふれあいといったワークライフバランスに恵まれた環境構築に感謝しております。

以下の写真は、2019年度に英国に留学した際に仲良くなったイタリア出身のご家族と撮影しました。パートナーのキャリアや家族との時間を大切に、明るく楽しく生活されている他文化のワークライフバランス感覚に触れることは大きな学びになりました。



教職の先生方をはじめ、研究支援員の方、教職スタッフの方々のサポートのお陰で自分が大事にしたいものを意識しながら仕事をさせていただいています。貴重な経験や時間を大切に、自分の研究や教育のスキルを確立させていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

## ★お役立ち情報 -ダイバーシティ(オンライン)開催のお知らせ-

10月下旬から11月にかけて、ダイバーシティセミナーをオンラインにて開催を予定しています。内容は、2部に分け、1つは「大学における性的マイノリティ者に対する支援と配慮について」の講演、もう1つは、LGBT等に関する理解確認クイズにて、教職員の皆さまよりいただいたご質問やご意見に講師より答えていただくものです。

空いた時間、都合の良い時間に視聴いただけるよう、各30分程度で、どちらからでも、いずれか1つだけでもご覧いただけます。詳細は改めてご案内します。

講師：原 ミナ津 (はらみなた) 氏  
NPO法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表理事  
LGBT法連合会共同代表

〒680-8550  
鳥取市山町南4丁目101  
ダイバーシティキャンパス推進室 (地域学部棟4階)  
TEL: 0857-31-5769 または 内線2166  
FAX: 0857-31-5797  
Email: diversity@edu.tottori-u.ac.jp  
HP: <https://www.tottori-u.ac.jp/5683.htm>  
(HPを移動・開設しました！)



室長：細井 由香 理事  
専任コーディネーター：長谷 鏡子 (キャリアコンサルタント)

Tottori University Office for Campus Diversity  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室

# Pear Pair 通信 第37号

## ●お知らせ - 鳥取県男女共同参画計画 名称変更 -

鳥取県では、男女共同参画社会基本法に基づいて作成する「男女共同参画計画」について、名称から「男女」を削除しました。  
性別に関わらず多様な性を前提とする計画の主旨が幅広く理解されるよう、新たな名称は「性にかかわらず誰もが共同参画できる社会づくり計画」となりました。  
この計画は都道府県ごとに作成されますが、男女の文言を使用しないのは、全国初の試み。是非全国へ広がってほしいものです。

### この号の内容

- お知らせ
- 活動報告①
- 活動報告②
- この号に聞く 雑賀 倫子 講師
- お役立ち情報① 「イスラム教を知ろう」
- お役立ち情報② 書籍『個「性」ってなんだろう?』

## ●活動報告① - ダイバーシティセミナー (FD研修・SD研修) を開催しました-

11月4日～11月30日までの約1ヵ月間、録画した映像を視聴いただく形式で、ダイバーシティセミナーを開催し、多くの方に受講いただきました。



例年は、講師にきていただく集合研修を行っていましたが、コロナ禍であり、また時間に制約され、多くの方に参加いただけるよう、録画した映像を視聴いただきました。  
内容は、「教育現場における性的マイノリティ支援の基礎～大学編～」と7月に実施したラーニングのご質問やご意見に対する回答編として「性的マイノリティへの支援と配慮について～鳥取大学教職員FAQ～」の2部制にて実施し、分けることで一部あたりの時間を短くしました。  
講師は、教職員の皆さまからのご質問やご意見に、率直に答えていただき、LGBTJだけでなくジェンダー教育として扱うべきではないかのご意見には、多くの声があったためには、象徴となる語句のほうが知られやすいこと、自分の属性を知ることによって変わる人も、など丁寧にご説明いただきました。  
受講した皆さまの声は、後日あらためて報告いたします。

## ●活動報告② - 学生スタッフの活動を行っています-

10月から正式な活動を開始した学生スタッフは、現在5人です。12月に開催予定の「イスラム教を知ろう」セミナーについて、内容や方法、時間など議論を重ねています。  
最初は、ほとんど知識のなかった学生も、YouTubeを見たり、本を読んだり、モスクへ見学に行ったりと、セミナーに向けて各自学んでいます。  
セミナーについては、「お役立ち情報②」でも紹介しています。  
<学生スタッフ活動>  
本年度は、毎月第一水曜日の3限の時間を定期活動日としており、地域学部棟4階4420講義室にて行っています。興味のある学生にお声かけください。

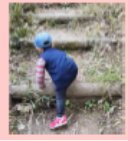


## ★このひとに聞く 雑賀 倫子 さん 医学部 講師

医学部保健学科の地域・精神看護学講座に所属しています。専門は、在宅看護学です。



4月からの復帰復帰は、コロナ禍での講義、実習からのスタートでした。その中でも、母は仕事を再開するまでに、子孫は新しい環境に慣れるのに日々格闘してまいりました。月1～2回の保育園からのお迎えコールがありますが、周りの先生方や研究補助の方（研究支援員制度を利用中）に助けられながら仕事をしています。  
休日の過ごし方は、2歳の息子中心の時間になっています。乗り物を見るのが好きなので、随分近くに行くと電車を見たり、バスを見たりしています。最近では、坂山に登って休日も動かしています。（親も体力がつかます）



## ★お役立ち情報① - 「イスラム教を知ろう」セミナー開催-

ダイバーシティキャンパス推進室では、さまざまな国や環境のもとで生まれ、育ちなどによる多様な個性・価値観を尊重し、偏見や差別のないキャンパスを目指してまいります。  
今回、「イスラム教を知ろう」と題し、イスラム教徒の留学生から、信仰したきっかけや自身の生活などを語っていただくセミナーを12月中旬に開催する予定です。詳しくは、別途ご案内します。

## ★お役立ち情報② - 書籍『個「性」ってなんだろう?』-

岡山大学大学院の中級教授監督の「個「性」ってなんだろう?」を購入しましたので、ご活用ください。  
出版元あかね書房のHPより  
しだいに大人の体に変化するころは、体も大きく揺れ動くことがあります。自分の体や性について迷ったり、人とは違う事を悩んだりすることがありますか？  
この本では、多数派や一般論にとらわれない、性のあり方や恋愛観があることを知ることができ、心と体の関係、性の多様性を理解することで、人間本来の持つ豊かな心や個性を、自分や友だちの個性を受け入れていく本です。  
対象：小・中学校中・高校生



### ご要望・ご相談などは、下記までお寄せください

〒680-8550  
鳥取市山町南4丁目101  
ダイバーシティキャンパス推進室 (地域学部棟4階)  
TEL: 0857-31-5769 または 内線2166  
FAX: 0857-31-5797  
Email: diversity@u.tottori-u.ac.jp  
HP: https://www.tottori-u.ac.jp/5685.htm



Tottori University Office for Campus Diversity  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室

# Pear Pair 通信 第38号

## ●お知らせ - 育児休業中の就労-

1月2日に放送されたドラマ「逃げるは恥だが役に立つ ガンバレ人間! 新春スペシャル!!」では、選択的夫婦別姓や同性間士の結婚問題など、多くの社会問題が盛り込まれており、男性の育児取得についても描かれていました。  
主人公である夫が育児休業を取得しますが、休業中に上司からのヘルプ要請により、育児を切り上げ早々に復帰しました。  
ドラマでは復讐しましたが、法律では、一時的・臨時的であれば、育児中の就労が可能な場合もあります。詳細は、厚生労働省のHPをご参照ください。  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_15470.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15470.html)

### この号の内容

- お知らせ
- 活動報告①
- 活動報告②
- この号に聞く 高部 祐剛 さん 工学部 准教授
- お役立ち情報①
- お役立ち情報②

## ●活動報告① - ダイバーシティセミナーアンケート結果について-

11月4日～30日までの約1ヵ月間、録画した映像を視聴いただく形式で開催したダイバーシティセミナーについて、受講者のアンケート結果を報告いたします。

有効回答数は、210名（受講された方のみ集計）。今回の開催形式について、「短時間で仕事の合間に受講可能だった」「オンデマンドで自分の都合に合わせて受講可能だった」など受講しやすかった点を評価いただきました。  
内容については、「SOGI（性自認）など知らなかったことを知ることができた」「自分が意識・体験したことのない出来事や事象については、このような形で示してもらいやすい」と好評でした。「アクティングによる問題（事件）があることは知っていたが、具体的にどのように考え対応すればよいかを知ることができた」「考えるよい機会がもたらえた」「内容が一般的な」「さらっと流した程度の内容だった」など一般的な内容よりも「具体的な事例があれば、より理解しやすい」「概要はわかったが、具体的にどのように対応したらよいか」など、具体事例を求め意見も数見されました。  
また「学生に対して今後どのように教育の機会をつくるのか」との意見もいただき、学生への教育方法について、検討が必要と考えます。  
今回、やむを得ずオンデマンドにて開催しましたが、受講に時間と場所を選ばないこの方法は、多くの教職員に受講の機会をもってもらえるという大きな利点を表出するものとなりました。



講師の高部 祐剛 さん

## ●活動報告② - オンデマンドセミナー「イスラム教を知ろう」を開催しました-

年末年始休暇をはさんだ12月21日～1月22日までの1ヵ月間、「イスラム教を知ろう」と題し、本学に留学している3名のムスリムである学生に、イスラム教について話してもらいました。  
推進室の学生スタッフの提案で、話してもらった内容は、国籍、学部、名前、イスラム教を信仰したきっかけ以外、自由に話してもらうことにしました。3名の留学生のほか、ムスリムである学部生も「鳥取のムスリム」について情報を提供してくれました。  
宗教をテーマとしたセミナーははじめての試みでしたが、多くの教職員、学生に受講いただきました。詳しくは次号にて報告いたします。



## ★このひとに聞く 高部 祐剛 さん 工学部 准教授

工学部社会システム土木系学科の高部 祐剛 さんです。水環境工学が専門で、日本の実験の積み重ねが重要な研究に取り組んでいます。



現在、1歳半になる息子があり、一緒に過ごす時間を大切にしたいと思い、朝夕の送迎は家族だけで保育園まで行くようにしています。  
限られた時間内で多様な業務をこなさねばならず、実験の時間を確保することが難しい時期もありましたが、本年度途中より研究支援員制度を利用することで充実した研究生活を送ることができています。  
息子を保育園に迎えにいきまず、満面の笑みを見せてくれます。このお迎えの時間が日々の楽しみで、明日への活力になります。周囲の先生方や研究支援員のご支援に感謝しながら、これからも研究や業務に邁進して参りたいと思います。

## ★お役立ち情報 - ライフプランセミナーを開催します-

女性の大きなライフイベントである妊娠や出産について、人生のキャリア形成をふくめて考えます。進学・卒業間近な学生、入職間もない職員など、妊娠や出産、不妊、働き続けるための各種法律についてお話しします。届出し不要でオンラインで開催しますので、男性もご参加ください。

- ★開催日時 令和3年2月26日(金)15時～16時
- ★開催方法 aootによるオンラインセミナー meet.google.com/xuz-tbch-bbo

### ご要望・ご相談などは、下記までお寄せください

〒680-8550  
鳥取市山町南4丁目101  
ダイバーシティキャンパス推進室 (地域学部棟4階)  
TEL: 0857-31-5769 または 内線2166  
FAX: 0857-31-5797  
Email: diversity@u.tottori-u.ac.jp  
HP: https://www.tottori-u.ac.jp/5685.htm



Tottori University Office for Campus Diversity  
鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室

9. 新聞掲載記事

(1) 山陰中央新報 令和2年11月18日



鳥取大学は、性少数者に対する啓発活動の一環として、今年11月18日、山陰中央新報に掲載された「性的少数者より身近に」の取材記事が、LGBTQ+の学生や教職員に広く読まれている。記事は、鳥取大学のLGBTQ+に関する取り組みや、啓発活動の重要性について詳しく取り上げられている。

## 性的少数者より身近に

### ガイドブック、看板表示 啓発活動に力入れる

山陰中央

鳥取大学は、性少数者に対する啓発活動の一環として、今年11月18日、山陰中央新報に掲載された「性的少数者より身近に」の取材記事が、LGBTQ+の学生や教職員に広く読まれている。記事は、鳥取大学のLGBTQ+に関する取り組みや、啓発活動の重要性について詳しく取り上げられている。

性的少数者に対する啓発活動の一環として、鳥取大学は今年11月18日、山陰中央新報に掲載された「性的少数者より身近に」の取材記事が、LGBTQ+の学生や教職員に広く読まれている。記事は、鳥取大学のLGBTQ+に関する取り組みや、啓発活動の重要性について詳しく取り上げられている。

### 「共生社会」へ意識浸透を

記者の目

鳥取大学は、性少数者に対する啓発活動の一環として、今年11月18日、山陰中央新報に掲載された「性的少数者より身近に」の取材記事が、LGBTQ+の学生や教職員に広く読まれている。記事は、鳥取大学のLGBTQ+に関する取り組みや、啓発活動の重要性について詳しく取り上げられている。



性的少数者に対する啓発活動の一環として、鳥取大学は今年11月18日、山陰中央新報に掲載された「性的少数者より身近に」の取材記事が、LGBTQ+の学生や教職員に広く読まれている。記事は、鳥取大学のLGBTQ+に関する取り組みや、啓発活動の重要性について詳しく取り上げられている。

(2) 朝日新聞 令和2年12月18日



鳥取大学が作成したリーフレットの一部

## みんな快適キャンパスに

### 鳥大多様性尊重へ取り組み

多様な生き方を尊重しようと、鳥取大が偏見や差別がないキャンパスづくりに取り組んでいる。コロナ禍の中でも理解を広めようと、オンラインやオンデマンドセミナーを開催した結果、四年より大人数が受講するという結果もあつた。

「見た目や氏名で性別を決めたくない」との配慮や対応について説明している。LGBTQ+への理解を広める学内サクルの学生や外部講師を招き、講座を開いた。参加人数が限られていた。しかも今年度は新型コロナウイルスの影響で、遠隔授業が導入された。

対面授業が再開された後、授業の一環として、同じ「LGBTQ+」というキーワードで、男女が区別しない「LGBTQ+」という意識の広がりについて、その意識に対しては「LGBTQ+」という言葉があることで知られてきた。LGBTQ+は約1カ月で200人以上が参加した。「オンデマンドで受講した」が、かえって注目を集めた。と理事で同推進部の細井由美子(58)は今後も工夫を凝らして取り組みを続けていくという。(池谷隆博)

### トイレ模様替え ■ オンデマンドセミナー

鳥取市朝山町南4-1-1



オストメイト(奥やおむつ替えシート)を使ったオムシジェンダートイレ

令和2年度 ダイバーシティキャンパス推進室活動報告書

令和3年3月 発行

発行 鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室

〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101

TEL: 0857-31-5769 (内線2166)

E-mail: diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp

ダイバーシティキャンパス推進室ホームページ

<https://www.tottori-u.ac.jp/5683.htm>